

## 酒屋になったオペラ歌手

ひと 2018



## 清水 邦典さん

札幌市北区あいの里の自宅を改装し、7月にワイン中心の酒屋「個人商店清水商店」を開いた。靴を脱いで入る店内は、ボトルが額縁の中に飾られ、まるで画廊のよう。隣の部屋にはグランドピアノもある。

美唄出身。今年5月に25年間音楽を教えた札幌大谷中高を退職したものの、今も現役のバリトン歌手にしてチェロ奏者だ。来年3月には札幌文化芸術劇場での北海道二期会のオペラ「椿姫」にも出演する予定で、「歌

って弾ける酒屋を目指したい」と意気込む。

10年ほど前、オペラの上演費用を捻出するため、酒類販売業免許を取得。その後免許のことは忘れていたが、今年1月に58歳となり、長女も今春進学で親元を離れたのを機に、「退職まであと2年。ちょうどいい機会では」と開店を思い立った。

もともと「夫婦2人で毎晩1本では足りない」くらいワイン好き。「計算したら、死ぬまでにあと7千本は飲める」と笑う。慣れないワインの仕入れは難しいが、「家飲み」と称した1本千円前後や、「プチセレブ」という2千円前後のラインアップも用意した。

「そんなに売れなくても、店内で試飲してもらったり、音楽を聴いてもらったり、地域の人たちが憩う場になれば」。週末は閉店後の有料コンサート開催も考えている。文化の拠点に育てるのが夢だ。問い合わせは同店 ☎011・556・6539へ。

(松本悌一)